

MOI MÊME

「モアメイム」とはフランス語で自分自身の意味です。

第21号
2020年3月



C O N T E N T S

- 男女共同参画週間事業
「男の家事が社会を救う！」
　　楽しく学べるジェンダー論」 1~3
- ウィルdeシネマ2019「空と、木の実と。」
「今、自分らしく生きるということ」 4
- 男女共同参画に関する市民アンケート調査 5~6
- 性的マイノリティ支援～枚方市の取り組み～
パートナーシップ宣誓制度の1年 7~8
- 小学生からのDV予防教育
～まだ早いと思われますか？～ 9~10
- ウィル・フェスタ2019 11~13
- 2019年度ウィル図書コーナーから 14

「男の家事が社会を救う！ 楽しく学べるジェンダー論」

東京大学教授 濑地山 角さん

2019年6月29日に開催された講演内容から抜粋して紹介

「ジェンダーは変えられる」

ご紹介にあずかりました瀬地山です。

私も東京が長いので、東京の方言は流暢にしゃべれるんですが、ここは、講演という公式な場ですので、日本語の標準語である関西弁でやらせていただきます。

(会場 笑い声)

子どもに恵まれて、10年間保育所の送り迎えをし、アメリカでの生活もしてきた中で、子育てで男にできひんことは何ひとつないというのを自信を持って言えるようになりました。私たちが、男やからこうせなあかんと思ってることのほとんどは、生物学的に決まっていることではなく、人がつくり上げたものにすぎない。人がつくり上げたものにすぎないのであれば、人と人とが相談して、変えていくことができるはずです。

私の専門はジェンダー論で、それをベースにしてお話しします。タイトルの「男の家事が社会を救う」ですが、男の家事がいかに重要なのは聞いてもらったらわかると思うんですけど、大きな話としては、現在の少子高齢化で低成長の時代に我々はどうやって生きていったらしいの

かという話をていきます。

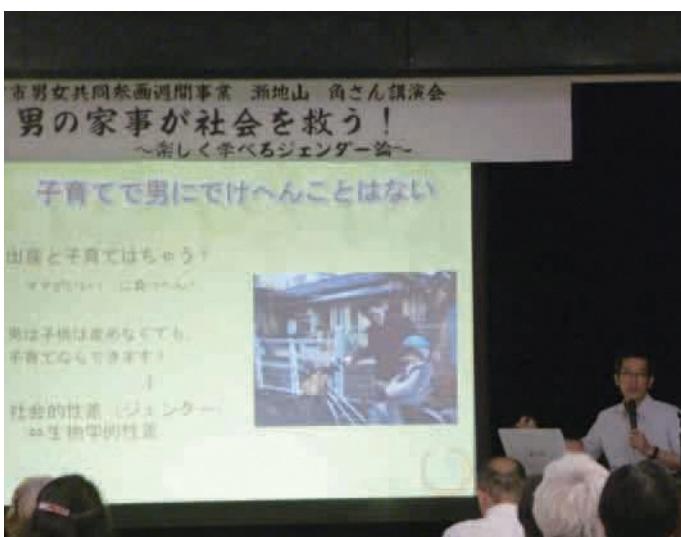
「女性だけが家事育児？」

私は「配偶者控除」という年金の第3号被保険者制度、これは廃止すべきだという立場で、社会政策上援助が最も必要なのは離婚によって生じている母子家庭だと思っているんです。でもここでは、働く女性と専業主婦の間の問題を対立ととらえて考えようとしているかもしれません。むしろ私が言いたいのはこの背後に潜んでいる男性の話なわけです。

2016年の国の調査では、共働き世帯の男性の家事関連時間が週平均1日46分に対して、女性が4時間54分。共働きでこの差はひどいと思いませんか。こんなに著しく男性の家事時間が短い状態は、「うちの家は別にそういう約束で専業主婦になってるんやから、とやかく言われる問題ではない」というレベルを超えて、社会的に問題にすべき水準だと思っています。結婚で相手に何を求めるかを独身者に聞いた国調査では、女性から男性に対しては人柄を除くと、トップに家事・育児の能力、2番目が自分の仕事への理解、3番目に経済力がくるんです。同じ調査で独身女性が将来の予定として専業主婦になるとを考えているのはわずか7.5%、男性も1割しか女性に専業主婦になってほしいと思っていない。でも実際に共働きになったら、女性ばっかり家事育児をやっているっていう状況で、社会的におかしいですよね。

(CM2本を視聴)

お母さんだけが朝から忙しく立ち働くCM、父親が子どもと一緒に母親が仕事から帰るのを待ちながらお鍋を作っているCM、これ、女性にとってどちらの家庭がよいかって、聞くだけ愚問ですよね。

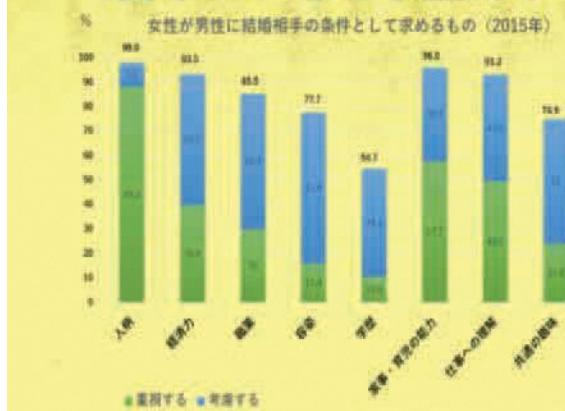


「めざすワーク・ライフ・バランスとは」

例えば木を伐採するときに山に植林をしない林業者と植林をする林業者がいるといいます。自由な競争をさせてしまうと、植林をしない業者の木は植林をしない分価格が安くなりますから、売れます。これを続けてしまうと、植林できずに日本中の山がはげ山になっていきます。しかし私たちは本来、環境にやさしい高い商品を買わなきゃならないんです。実はこの話が男性のワーク・ライフ・バランスにつながっています。植林を子育てと置きかえてください。子育てをしない労働者と子育てをする労働者が自由な市場で競争したらどんなことが起きるか。企業は短期的な合理性を考えて、男女に限らず、子育てをしない労働者ばかりを雇うことになるんです。つまり、少子化というのは、個々の職場が目の前の労働力に対して、子育ての時間とコストを保障することなく長期間働き続けてしまったために、会社は維持できても社会が維持できない、社会自体の再生産ができなくなってる状況なんです。だから、ワーク・ライフ・バランスというのは、別に女性が時短を取って家事・育児を両立させるためのものじゃないんです。男性がちゃんと家事・育児を分担するということが起きない限り、この少子化の問題は解決しません。「男の家事が社会を救う」というのはそういう話なんです。

皆さんの職場であしたからできる提案が一つあります。男性の産休・育児休暇取得をもっと増やしてほしいんです。予定が立たない忌引きに比べたら、子どもの生まれる予定日というのは半年前からわかってるわけでしょう。メジャ

男子にこそ家事能力！



出生動向基本調査 独身者対象調査 18~34歳の独身者 2015 より

一リーグでも出産休暇はありますよ。日本の育休制度は給付金もとてもよくできています。ぜひ男性の産休・育休取得を当たり前にしていただきたい。家族の死と家族の誕生。人生でこれ以上の大事件なんてあるでしょうか？

「絶対当たる1億円 ジャンボ宝くじを手に入れる方法 男性も家事育児を！」

次に、今、子育て中の皆さんで共働きだったら、間違なくジャンボ宝くじが当たる方法を説明していきますね。1頭馬車態勢でお父ちゃんが馬車馬みたいに働いていると、馬の足の骨が折れたとき、それから会社が倒産したらどうしようもないですよね。そこで、馬車を2頭立てにする、つまりお母ちゃんが働いて稼ぐというのは、男女の平等の話は関係なくても、この低成長の時代の家計のリスク管理として不可欠な発想なんですよ。

日本の女性は第一子の出産後に正社員であることをやめちゃう。第一子の出産後に正社員を続ける人は25%ぐらいしかいないんですが、続けていたら、年収が300万円くらいでも生涯収入は1億円になります。つまり女性が第一子の出産後も正社員で働き続けたら、間違いなくジャンボ宝くじの億単位が当たるんです。そしてここで重要なのは、女性でなく男性のほうなんです。

共働き世帯の家事関連時間が1日男性46分対女性4時間54分。2人合わせて6時間やってるということで、2で割ったら3時間です。だったら、男が1日3時間家事・育児をや



(C) HONOTA design

ったら、計算上、女性がフルタイムで働くということになりますね。平日3時間は無理でも土日で取り返せます。

妻が正社員のときに、男性はその収入を追加で稼ぐことは不可能です。自分1人の収入、自分1人の成果を最大化すると考えるから、女性に全部サポートに回ってくれとなるわけです。男性一人のアウトプットだけを最大化するという考えを捨てて、夫婦2人のアウトプット(収入や成果)を最大化しようと考えるんです。それは別に残業をするなと言ってるのではありません。お互いに相談をし、人に頼むときは人に頼み、自分がサポートに回るときは回り、上手に相談してやっていければいいこと、そんな難しいことじゃないですよ。

ここに来てらっしゃる皆さんでも保育所に子どもさん預けて

おられる方は、週1日でもいいので、お父さんがお迎えする日をつくってください。例えば週1回、水曜日は絶対お父さんと決めておいて、会社にも「水曜日は絶対にお迎えに行かせてください」と言っておくんです。残業より時給が高く、桁違いの収入が手に入り、労働災害を防ぐ機能までついていて、子どもと一緒にいられます。

(CM2本を視聴)

体調の悪い男性が仕事に行かされていましたが、このCMが笑えないのは、男性が生活上の理由、経済上の理由でいまだに自殺をしてるからなんです。20代から40代までの男性の死因のトップは自殺です。そういう意味でも、馬車を2頭立て馬車にするというのはもうこれからの時代、男女の平等とかじゃなくても、当然リスク管理として必要だと。そう考えると、男の家事が女性の就労を支え、女性の就労は男性の大黒柱としての重みを軽減して、2本の柱で屋根を支え、子どもを守るんです。女性の就労は男の命を救う、つまり、男の家事は自分の命を救うことにもなるんです。女性が稼ぐのと同時に男性の家事も家庭の危機

管理に必要です。土日のお昼ご飯を作るところからでかまいません。お母さんがインフルエンザで倒れたときも助かります。具体的に、どのように家事をするかということについては、皆さんのご家庭で相談してみていただきたいんですね。

正社員の話を中心にしましたが、パートの方も同じです。男性にちゃんと家事を分担してほしいというのが当然のことだと思います。そして専業主婦のご家庭で一番やっちゃんいけないのが、子どもの面倒を見ているとき、夫が妻に向かって「手伝おうか」というやつです。

子育てにおいては父親と母親の役割は同じであるというのが基本です。



「新しい社会を」

(DVDを視聴)

今、お父さんが病気で死ぬのがわかってから残業を断るシーンが途中で出てきました。死ぬのがわかってから残業を断ったんじゃ遅いんです。なので、普通にお父さんと夕食を食べられる。できればちゃんとお父さんが準備をして夕食を食べられるという社会が当たり前になってほしいと、そういう意味を持って見ていただきました。

「男の家事は社会を救う」んです。女性と男性で新しい社会を構築していきましょう。

(文責:枚方市人権政策室)



「今、自分らしく生きるということ」

映画『空と、木の実と。』

主人公の母 小林 美由紀

2019年8月に枚方市人権政策室 男女共同参画担当(男女共生フロア・ウィル)さまとのご縁をいただき、ウィルdeシネマにてドキュメンタリー映画『空と、木の実と。』を上映していただきました。枚方市でたくさんの方に、ご覧いただくことができましたことを、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

『空と、木の実と。』は、日本最年少で性別適合手術を受けた主人公を15歳から24歳まで追い続けた、9年間のドキュメンタリー映画です。おそらく日本で、セクシュアルマイノリティを扱ったドキュメンタリー映画の中でも、一番時間かけている作品だと思います。

初めて主人公がカメラの前に立ったのは、2010年15歳の時でした。幼い頃から、性別に違和感を感じていた主人公が通っていた、公立の中学の校舎での撮影でした。その時は、まさか映画を作る事になるとは、主人公も付き添っていた母親の私も、当時ディレクターをされていた常井監督も、考えていませんでした。

監督との出会いについて、監督の言葉をご紹介します。

「心と体の性別が一致しない、性同一性障害の子供たちは、男女別の生活を求められる学校生活で、さまざまな悩みや苦しみを抱えている。」

こんな新聞記事を読んだのは、2010年の夏でした。『当事者たちを取材したいが、引き受けてくれる子供はどこにいるのか。砂漠の中のダイヤモンドを探すようなものだと途方にくれていたら、あっという間に出会ってしまったのが、主人公の小林空雅さん(当時15歳)です。しかも、このダイヤモンドは、とてもかわいらしく、しっかりとした自分の意見をもち、顔出しも本名出してもOKという勇気の持ち主でもありました。』

当時常井監督は、ニュース番組のディレクターをされており、本当に偶然出会いました。そこから9年間の撮影がスタートしました。

主人公は、幼い頃から自分の気持ちをとても大切にしていました。自分の好きなもの、したいこと、見たいものを、人に強いられる事を嫌い、誰かに合わせることもなく、自分一人でも楽しめる部分がありました。

ですから、友達に対しても自分の思いを強要する事もなく、争う事を嫌う子でした。他の子が興味を示さなくても、自分が興味があれば、一人で楽しめる強さのようなものもあ

りました。

それは、もしかすると、右へ倣えをよしとする環境の中では、自分勝手、わがまま、協調性がないと、言われてしまうかもしれません。

『空と、木の実と。』には、主人公の他に78歳まで男性として生きてきたけれど、女性として人生を全うしたいという思いから、性別適合手術をして戸籍を変更した八代みゆきさんという方も登場されます。

また、男性、女性という枠組みでは自分を表現できないという、Xジェンダーの中島潤さんという方も登場されます。

性別にとらわれる事なく「自分とは何か」「自分らしい生き方とは」「性別」という枠を超えた向こう側に見える、本当の自分を探し続けてきた人たちと出会い、主人公にも少しづつ変化が生まれてきます。

そして、主人公が見つけた「今の本当の自分らしさとは?」

常に「今の自分とは?」を問い合わせ続ける生き方。「こうあるべき」「ねばならない」を手放し「このようにしたい」「こうありたい」と言える環境が、これから必要になっていくのではないか?」

自分との違いを認め合い、それぞれの生き方を尊重し合えるような社会になることを、心から願っています。

この映画は、性別違和を扱っている映画ですが、「自分らしさとはなんだろう」という問いを、すべての人に投げかけるための映画であると思います。

すべての人に、ご覧いただきたいと思います。

2020年春以降、『空と、木の実と。』は、『ぼくが性別「ゼロ」に戻るとき～空と木の実の9年間～』とタイトルをえて、東京を皮切りに全国で劇場公開がスタートします。よろしくお願い致します。

男女共同参画に関する市民アンケート調査



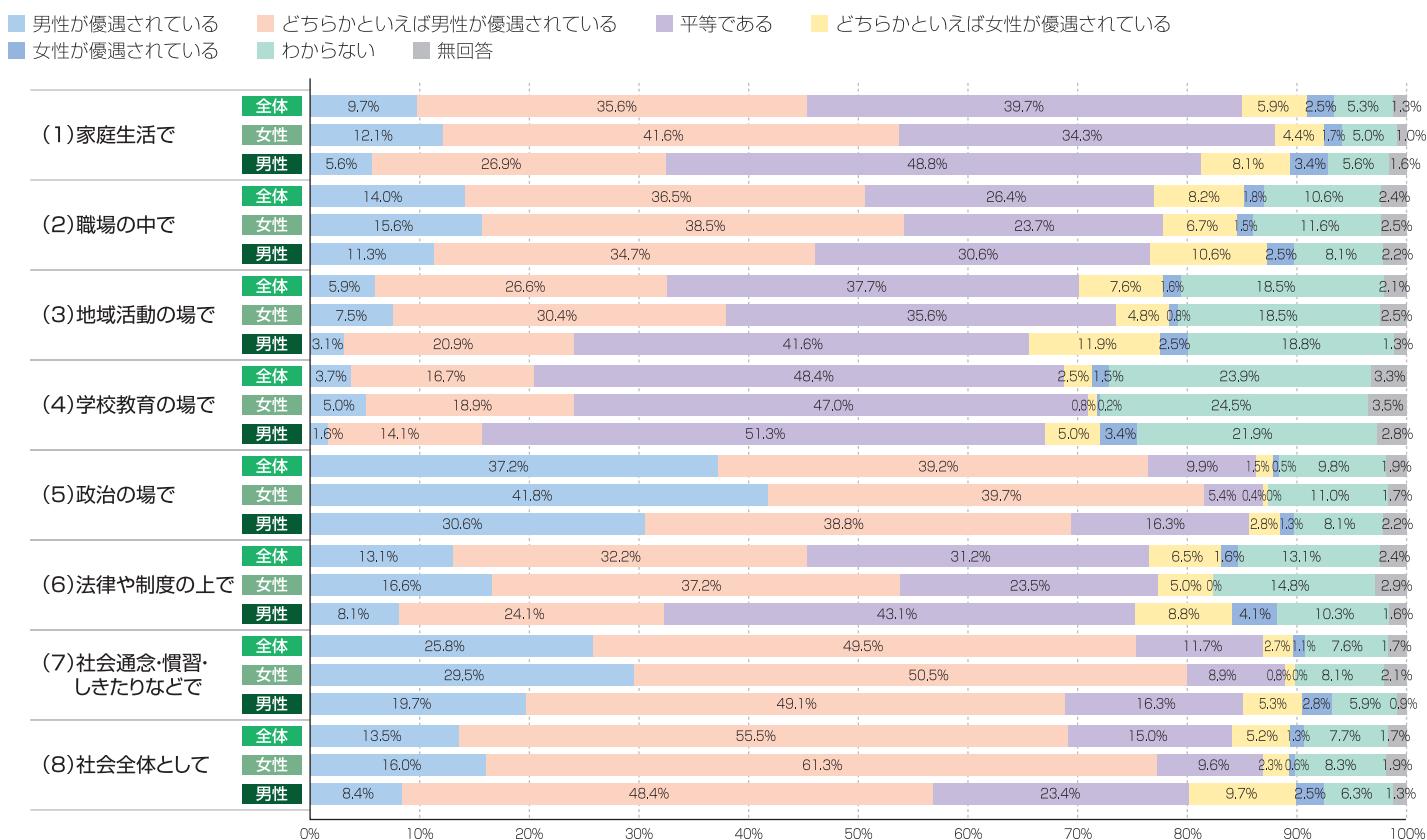
枚方市では、現在、性別に関わらず誰もがいきいきと暮らせる男女共同参画社会の実現に向けて、第3次枚方市男女共同参画計画(計画期間平成28(2016)年度から令和7(2025)年度)を実行中です。令和2(2020)年度にはこの計画の中間見直しと、具体的な実行施策を定めたアクションプログラム後期(令和3(2021)年度～令和7(2025)年度)の策定を予定しています。これに向けて、令和元(2019)年10月から11月にかけて、男女共同参画に関する市民の意識や現状を把握するために、20歳以上の市民と市内の学校に通う小学生から大学生に対し、アンケート調査を実施しました。

その中から、20歳以上の市民に実施したアンケート結果を抜粋して紹介します。すべての項目のアンケート結果や詳しい分析については、枚方市ホームページで公開している「報告書」をご覧ください。

○調査概要

20歳以上の市民対象のアンケート調査票は、住民基本台帳から年代、地域を分け、男女比を按分した上で無作為に抽出した2,000人を対象に配布し、827人の方(女性481人、男性320人、女性／男性では答えられない2人、答えない9人、無回答15人)から回答をいただきました。

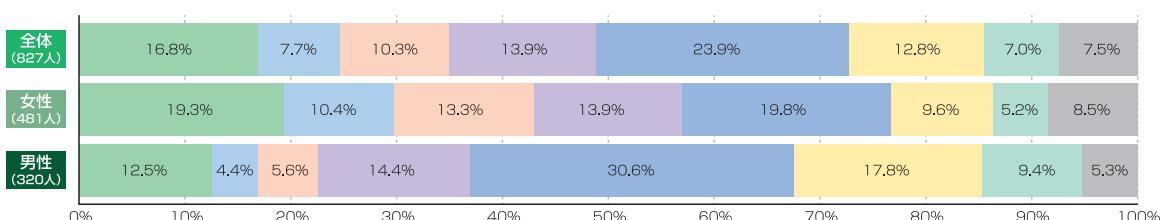
図1 男女はどの程度平等になっていると思うか (全体827人 女性481人 男性320人中 令和元年度調査)



男女の平等感について聞いたところ、全体ではどの場でも「男性が優遇されている派」(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)が「女性が優遇されている派」(「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計)より多くなっています。その中でも特に「男性が優遇されている派」が多いのは「政治の場」で、76.4%で、性別でみると女性は81.5%、男性は69.4%が「男性が優遇されている派」です。全体で「平等である」が多かったのは「学校教育の場」で48.4%、「家庭生活」で39.7%ですが、「家庭生活」では、男性は「平等である」と感じている人が48.8%に対して女性は34.3%と、男女で感じ方に差がみられます。

図2-1 仕事に費やす平均時間（平日）《令和元年度調査》

■ ほとんどない ■ 4時間未満 ■ 4時間以上6時間未満 ■ 6時間以上8時間未満 ■ 8時間以上10時間未満
 ■ 10時間以上12時間未満 ■ 12時間以上 ■ 無回答



仕事に費やす時間について、平日では「8時間以上(10時間以上12時間未満、12時間以上含む)」が女性34.6%、男性57.8%となっており、女性・男性いずれも「8時間以上10時間未満」の割合が最も高くなっています。

図2-2 家事に費やす平均時間（平日）《令和元年度調査》

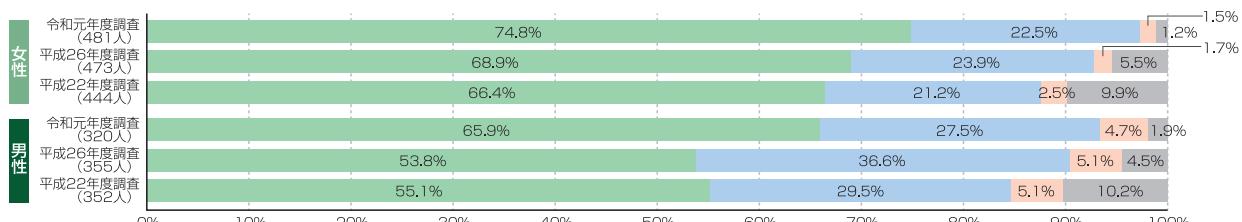
■ ほとんどない ■ 30分未満 ■ 30分以上1時間未満 ■ 1時間以上2時間未満 ■ 2時間以上3時間未満
 ■ 3時間以上4時間未満 ■ 4時間以上5時間未満 ■ 5時間以上 ■ 無回答



家事に費やす時間について、平日では「30分未満(ほとんどない含む)」が女性11.0%、男性50.9%と大きな差が見られました。女性は「3時間以上4時間未満」が16.4%で最も高く、男性は「ほとんどない」が25.9%で最も高くなっています。

図3-1 配偶者間で、大声でどなったりなぐるふりをして相手を脅したりする行為はDVだと思うか。《過去調査との比較》

■ どんな場合でも暴力にあたると思う ■ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
 ■ 暝にあたるとは思わない ■ 無回答



過去の調査と比べると、女性、男性どちらも「どんな場合でも暴力にあたると思う」人の割合が増えていますが、一方、今回の調査で、女性は1.5%、男性では4.7%の人が「暴力にあたるとは思わない」と回答しています。

図3-2 配偶者間で、なぐったり、けったり、物をなげつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする行為はDVだと思うか。《過去調査との比較》

■ どんな場合でも暴力にあたると思う ■ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
 ■ 暝にあたるとは思わない ■ 無回答

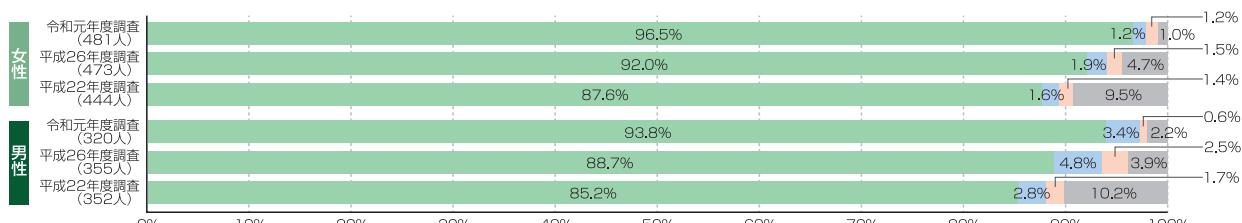


図3-1に比べてより多くの人が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答しています。過去調査と比べるとDVへの認識が高まっていることがわかります。

性的マイノリティ支援 ~枚方市の取り組み~

枚方市では、平成22(2010)年4月に施行された枚方市男女共同参画推進条例において、「多様な性のあり方を尊重し、多様な性のあり方を理由とする人権侵害を行ってはならない」と定め、第3次枚方市男女共同参画計画に基づき、性の多様性への理解促進に向けて取り組みを行ってきました。

枚方市ではこれまで市民向けに性的マイノリティに関する啓発として映画上映会や講演会、パネル展などを実施してきましたが、これまで以上に積極的に性的マイノリティ支援に取り組んでいく姿勢を示すため、平成31(2019)年3月(平成30年度)に「ひらかた・にじいろ宣言」を行いました。

令和元(2019)年度は、4月に大阪府内では大阪市に続いてパートナーシップ宣誓制度を導入、LGBT電話相談を開始、7月には当事者や支援者が気軽に集まれる場所としてコミュニティ・スペース「ひらかた・にじいろスペース」を開設するなど、さらにさまざまな施策をスタートさせ、性的マイノリティ支援元年ともいえる年になりました。

これからも、当事者への支援を充実させるとともに、市民の方への啓発、職員研修などを通じて、支援者「ALLY(アライ)」^{注1}を増やす取り組みを進めます。

この1年.....

- ・3月 「ひらかた・にじいろ宣言」
記念講演会
「ぼくたちのカラフルな毎日
弁護士夫夫の波瀾万丈奮闘記」
弁護士 南和行氏 吉田昌史氏



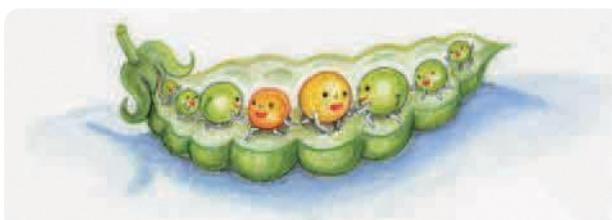
- ・4月 パートナーシップ宣誓制度開始
LGBT電話相談開始

- ・7月 コミュニティ・スペース開始

- ・8月 ウィルdeシネマ
映画「空と、木の実と。」上映
ウィルdeシネマ
映画「愛と法」上映
ひらかたまつりに参加(虹色のうちわ作り)

- ・9月 ウィル・フェスタにおいて、
トランスジェンダーで歌手の悠以(ゆい)さんの
講演会&コンサート開催、
枚方市で活動を行う当事者団体である
一般社団法人ELLYの講演会開催、
LGBTポスター展開催

- ・11月 職員研修開催 講師:弁護士 南和行氏



ひらかた・にじいろ宣言全文



注1…多様な性自認・性的指向に理解のある人であり、理解者、応援する者、支持者のこと。

○ パートナーシップ宣誓制度

パートナーシップ宣誓制度とは、一方または双方が性的マイノリティであるカップルが、お互いがパートナー関係にあると宣誓した場合に市がそれを証明する制度です。国の法律ではなく、自治体の条例や要綱によって実施するため、相続等財産上の権利や税金の控除、扶養の義務などの権利、義務は発生しません。婚姻関係に準じる生活を送りながらもそのことを対外的に証明する手段が乏しく、生きづらさを抱えている方々への社会的理解が進み、パートナーシップを尊重する取り組みが広がっていくことを期待し、枚方市ではこの制度を導入しました。パートナーシップ宣誓書受領証の提示により、一定の範囲で婚姻関係や事実婚に準じた取り扱いが行われるサービスがあります。枚方市では宣誓書受領証を提示することで利用できる制度を増やしていくとともに、民間事業者や市民の皆様に対しても、周知啓発を進めていく予定です。

利用できる制度(令和2(2020)年2月末現在)

- ・福祉オンブズパーソン苦情申し立て
- ・枚方市結婚等新生活支援事業
- ・市営住宅入居申し込み
- ・府営住宅入居申し込み
(大阪府の制度ですが大阪府がパートナーシップ宣誓制度を導入したため利用可能になりました)

対応可

- ・留守家庭児童会室入室申し込み
- ・保育所等利用申し込み

～パートナーシップこの1年～

枚方市内で初のパートナー宣誓は4月4日。
令和2(2020)年2月末現在で、パートナー宣誓をされたカップルは9組です。
令和初日となった5月1日は臨時で窓口を開設し、1組のカップルが宣誓されました。

○ コミュニティ・スペース

性的マイノリティ当事者及び支援者が気軽に集えて日頃の悩みや思っていること、情報交換などができる場所として、7月から開始し、月1回のペースで実施しました。参加者は小学生～50代までと幅広く、いくつかのグループに分かれて、ファシリテーターのもと、主にフリートークを行っています。2月末までの参加者は延べ66人。

参加者の感想

- ・場所が非公開なので安心して参加できた。
- ・一度参加したら、居心地がよい場所だったので、友人を誘ってきた。
- ・他市では土日の日中に開催するものが多く、平日の夜間は来やすい。
- ・広報で知った。交流会には勇気を出して初めて参加した。

○ 職員研修報告

11月に弁護士の南和行氏を講師にお招きし、市職員を対象とした研修を行い、全部署にアライシールを配布。市役所の各窓口などにシールを貼付しています。

○ LGBT電話相談

4月から月1回、性的マイノリティ当事者の専門相談員による電話相談を開始し、ご本人やご家族からさまざまな相談が寄せられました。

LGBT電話相談

毎月第2木曜日 午後3時～午後8時
電話番号 072-843-5730
※受付は終了時間の20分前まで

○ ひらかたまつりに参加しました

8月24日(土)、市役所周辺で行われたひらかたまつりにおいて、性的マイノリティ支援を表す虹色を構成する6色の折り紙を使ってカラフルなうちわが作れる「うちわ作り体験ブース」を出展しました。参加者にはアライシールを配布し、性的マイノリティについて理解を深めてもらえるようなクイズも行いました。



小学生からのデートDV予防教育 ～まだ早いと思われますか?～

NPO法人SEAN予防教育部門G-Freeコーディネーター 梶山恵美

2006年度から取り組み始めた【みんな活き活きプログラム】は小学校中学年～高学年に向けたデートDV予防教育授業。子どもたちの反応や意見を反映し内容を進化させながら、枚方市では2014年度から実施し、今年で6年目を迎えました。中学生に向けたデートDV予防教育【対等な関係って?デートDVについて考えよう】も2017年度から実施しています。

DVとは、【配偶者からの暴力】を指しますが、今10代～20代の若者の間でも【恋人からの暴力】つまりデートDVに悩む子どもたちが増えています。

DVの関係性は、自分の固定化してしまった性役割の価値観を相手に押し付け支配しようとする行為です。そしてその支配方法に暴力を用います。



恋愛をする、ということは本来とても素敵なことで、「好き」「うれしい」「ドキドキする」など相手へのプラスの感情や感覚からスタートすることが多いでしょう。ではなぜ、性役割の価値観などが固定化して押し付けてしまうのか?なぜ暴力という手段を選んでしまうのか?

それは、恋人やパートナーができた時突然自分の中に発現するわけではありません。私たちは育ちの中で、学んで来たことを使って人間関係を作っています。固定化した価値観を学び、暴力を伴ったコミュニケーション方法を学べば、それを使って生きていこうとするのは、ある意味自然な形です。

子どもたちとの授業の中では、それら一つ一つに気づ

き、考えていきます。

小学生プログラムの内容を中心にご紹介します。

性役割の価値観の固定化

【女の子】

「部屋を片付けなさい」「大声出すな」「キレイにしなさい」「男の子が遊ぶ遊びをしないで」

【男の子】

「泣くな」「いっぱいご飯食べろ」「力仕事して」「勉強しなさい」「女の子に手をあげるな」

授業の中で「男だから、女だからと何か言わされたことがありますか?」の質問に小4または中2の子どもたちが答えてくれた意見の一部です。

女だから、男だからという言葉をつけなくてよ

いものがあると思いませんか?

この性別に関する社会的規範はジェンダーと呼ばれ、男の子は強くたくましくリードする、女の子は優しくかわいく一步引いて男性を立てるというメッセージを送り続けています。

意見を言ってくれた子どもたちに「その時どんな気持ちだった?」と聞くと「腹が立った」「いやだった」「悲しかった」と感じています。そしてその感情にフタをすることで大人達や社会に合わせていくようになる子は少なくありません。

デートDVの被害者または加害者にならないためには、ジェンダーにとらわれずに恋人同士が対等に意見を言い合

える関係であることが必要です。それには、まず大人の私達の意識をしっかりと変えていくことが重要です。

授業では子どもたちに「女の子だから男の子だからではなく権利を持った一人の人として人生を選んで幸せになつていっていいんだよ」というメッセージを伝えています。子どもたちから、(ホッとした)、(自分を大切にしたい)等の感想をもらいます。

暴力を伴ったコミュニケーション方法

「誰かに嫌なことをされたり、言われたりしたらどんな気持ちになる?」

「つらい気持ち」

「でも、泣いたらダメ、強くなれって言われたらどうする?」

子どもたちとの授業のやり取りの一部です。いろんな意見が出ます。がまんする、やり返す、違う人に八つ当たりする、など。

もちろん、やめてと言う、相談する、逃げるという答えもあがります。でもその意見を聞いて「絶対相談なんかだれにもせえへん」とつぶやく子もいます。

悲しい、怖い、みじめ、つらい、といった感情には、しっかりと分かち合ってくれる、寄り添ってくれる存在がいることが大切です。そうしてもらうことで自分の気持ちと向き合い、コントロールでき、表に出すと選んだ場合は(話し合う)ということもできるでしょう。

けれど受け止めてもらえなかったり、泣くな!しっかりしろ!やりかえせ!などのメッセージを受けた場合、気持ちは行き場のないまま怒りに変わり、自分を傷つけたり、誰かを傷つけてしまう暴力になってしまいます。そして誰かを傷つけるとき、自分より強い人は選ばずに自分より弱い人、やさしい人、やり返してこない人を選んでいきます。友達であったり、兄弟であったり、親であったり、見知らぬ人をネットなどで傷つけることも。そして傷つける相手に恋人を選ぶことをデートDVといいます。

想いあって励ましあって支えあってという経験もできる、たくさんのが学べる恋愛というものが、暴力を伴ったコミュニケーションで壊れていってしまうことは大変つらいことです。被害者の人生に大きな深い傷を残し命にかかるわる



場合もあります。

大人ができること

私達大人は子どもたちが気持ちを言ってくれた時、一生懸命聴くということができます。何気ない話、うれしい話、腹が立った話、失敗した話。気持ちを否定しないで聞くことで、大人も子どもも心を分かち合う練習ができます。

暴力は人の心のエネルギーをごっそりと奪い去っていきます。抵抗する力をどんどんそがれてしまうので、いやと言えなくなるのは当たり前のことです。

いや、やめて、と言えない人が悪いのではありません。困っている、つらい思いをしている気持ちを聴いたときは「あなたが悪いんじゃないよ」と伝えてください。

暴力を伴わないコミュニケーション方法を使っていけるようになることがデートDVを予防することにつながります。そしてあらゆる暴力の被害を防ぐことにもつながっていると思っています。

枚方市の相談窓口を載せています。今、パートナーや恋人の暴力に苦しんでおられる方がいらっしゃいましたら、逃げていいです、あきらめずに相談してください。

相談窓口

枚方市配偶者暴力相談支援センター
ひらかたDV相談室

相談時間:平日 9時~17時30分
(土日祝日・年末年始を除く)

電話番号:050-7102-3232

ウイル・フェスタ2019

令和元(2019)年9月21日(土)開催

昨年9月21日(土)、メセナひらかた会館にて、市と参加グループで構成した実行委員会の企画により、1年に一度のウィルのお祭り「ウィル・フェスタ2019」を開催しました。当日はあまりお天気にはめぐまれませんでしたが、シンガーソングライターの悠以(ゆい)さんの講演会&コンサート、ディズニー映画「ズートピア」上映会、市民グループによる展示や活動発表、ワンテーブルショップをはじめ、いろいろなイベントにたくさんの市民の方にご参加いただき、盛り上がることができました！

シンガーソングライターの 悠以さんによる講演会&コンサート

トランスジェンダーでシンガーソングライターの悠以さんの講演会では、ライフケースティージごと、また歌手活動を通じて感じた気持ちなどについてお話をいただきました。参加いただいた市民の方からは、「当事者の話を聞くことができてとても良かった」「言葉がひとつひとつ伝わってきた」「自分も当事者で、勉強させてもらった」などの感想が寄せられました。



LGBT絵画展 (一般社団法人ELLY)

市内の小学生・中学生がLGBTについて学習し、画用紙にポスターイラストを描いたものを展示了しました。



オーナー

〈墨雅の会〉

今年は春夏秋冬の作品も展示了しました。フェスタに参加することによって会員の作品高揚への意識も高まり、見て頂いた方々とのふれあいもあって有意義な一日になりました。

2階フロアー

LGBT (=L (レズビアン) 女性同性愛者、G (ゲイ) 男性同性愛者、B (バイセクシュアル) 同性も異性も恋愛対象である人、T (トランスジェンダー) 心の性と身体の性に不一致を感じる人、の頭文字) パネル展示や、ワーク・ライブ・バランスに関する啓発パネルを展示了しました。



〈LIP編集局&とれぶ出版部〉

地域密着型情報誌『LIP』の表紙カラー版とバックナンバー、とれぶ出版部の本の展示を行いました。「カラーで見ると違うね」「自分の本を作ってみたいんだけど」と感想や問い合わせをいただき、参加できてよかったです。



ウィルdeインストラクター & オーナー

今年も市民公募による講座や活動発表の場として開催しました。
多彩な取り組みを多くの来場者に知っていただく機会となりました！

インストラクター

楊式太極拳〈談遊会〉

動きの説明を加えながらの立禅、足の運びの練習、基礎門の演武。2人一組での推手、全員での全門通し、段々と身体もほぐれ、力も抜け気持ちよく身体を動かすことが出来ました。太極拳を少しでも体感してもらえば幸いです。又機会があれば参加したいです。

講演会 一多様な性と私たちができることー^ー 〈一般社団法人ELLY〉

今回はお越しいただきありがとうございました。この講演会でさらに多くの方々にLGBTを知ってもらい、みんなが生きやすい街になればいいなと思っています。本当にありがとうございました。

CAP大人向けワークショップ〈しまもとCAP〉

地域の人がCAPの情報を知り、身近な子どもたちにCAPを使ってほしいとの思いで毎回ワークショップをしています。「子どもの話（気持ち）を聞くことが大事」といった感想も頂きました。参加して下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

工作体験(小物入れ・花)

〈図書館フレンズ〉&〈エッセイサークル文文〉

牛乳パックを使った可愛い小物入れと、新聞紙のカラー刷りの部分を使って花を作る工作体験を楽しんでいただきました。子どもから大人まで参加して下さった皆さんは手づくりの完成品を笑顔で持ち帰されました。

絵本の読み聞かせ〈図書館フレンズ・ひらかた〉

35冊の絵本と5台の面展台で広場を作り、2回のお話し会を開催。子ども達が好きな絵本を持ってきて、読んでもらっていました。家族のコミュニケーション作りに絵本が活躍していました。

語り&ワークショップ〈語りの森の仲間たち〉

語りを始めたばかりの人、もっと、もっと上手くなりたいと意欲満々の人、語りを通して、自分をのびのび表現する喜びに満ち溢れた人。彼女たちが、これからも自分の力を信じて、色々な舞台に挑戦していくことを願っています。語りの輪、語りの場を広げたい。その言葉通り、ウィル・フェスタで新たな方々とも出会えました。ありがとうございました。



〈詩の会 ROSA〉



〈エッセイサークル文文〉



楊式太極拳
〈談遊会〉



工作体験
〈図書館フレンズ〉
〈エッセイサークル文文〉



講演会
〈一般社団法人ELLY〉



語り&ワークショップ
〈語りの森の仲間たち〉

〈五行歌ひらかた歌会〉

五行歌（ござうか：五行に書く短い詩）の作品を展示しました。例年より人出が少ないのでしたが、じっくり作品を見てくださる方もいらっしゃって、「これはいいですね！」など感想をいただけて励みになりました。

〈詩の会 ROSA〉

詩の会ROZAは初参加でしたので挑戦する気持ちで詩の作品を展示しました。ご来場の皆様、熱心に読んで下さりありがとうございました。今後も言葉のスケッチで日々の暮らしの中に詩をみつけ活動しようと思います。

〈エッセイサークル文文〉

エッセイは起承転結が基本ですが、日常のできごと等を気軽に書いてみることです。今年もテーマは自由に。会員の工夫を凝らした作品を展示しました。ご来場の皆様は熱心に読み上げて下さる人が多く大変励みになりました。

〈タづるの会〉

フリースペースでのタづるカフェも恒例に。開店を待って下さる方や「コーヒーとお茶おいしい」と二度も来て下さる方もおられ、おにぎり・お菓子は完売！来年も、コーヒー・お茶・おにぎり・お菓子でお待ちしています。

〈しまもとCAP〉

子どもへの暴力防止に関心を持って展示を観てもらえたことがありがとうございました。他グループの人と交流や情報交換ができ、楽しかったです。たくさんの人にCAPの情報を知ってもらいたいです。

〈枚方地区人権擁護委員会〉

昨年に引き続いで4回目の参加ですが、たくさんの来場者の方々に人権擁護委員の役割や活動内容を知っていただける大変有意義な機会となりました。

「イル・フェスタ」ワンテーブルショップ

イル・フェスタでは4回目となる毎年好評のワンテーブルショップを今年も実施しました。起業体験を希望する方や起業を目指す多くの市民・グループに応募していただき、14グループが手作り作品の販売や、占い、マッサージなどいろいろな内容で出展していただきました。多くの参加者が来場され賑やかで終始楽しい雰囲気の中で出展者同士の交流や市民の方との出会いがありました。

「チフェイシャル」 (フェイシャルリンパドレナージュ)

3回目の出展で、内容を少し変えました。売上は昨年より減少しましたが、手軽にサービスを提供でき、身近な場で異業種交流ができるることは貴重な体験です。苦手な分野を補い合えることも、とても助かります。

「Angel*Garden」(ハーバリウム)

今回始めての出展でした。イル・フェスタに参加させていただきありがとうございます。他の出展者さんとの出会いや交流ができ、楽しかったです。また、大変勉強になりました。

「抱き人形 愛」(抱き人形とその洋服の販売)

子ども達が、お人形を抱いてごっこ遊びをする姿を思い、心を込めて作りました。まだまだ未熟ですが、フェスタに出品する事が作る励みとなりました。今回とてもいい経験をさせて頂き、ありがとうございました。

「HEMERA」(小顔リフト整顔)

初めての参加でしたが、アットホームな雰囲気でイベントを楽しめました。思っていたより人の出入りが少なかったので、自前で告知をする必要があったと勉強になりました。貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございます。

「フェイシャルサロン」 (ドリンクの試飲、販売、ハンドケア)

イル・フェスタに参加させて頂き有難うございました。私達の施術は無料という事もあり収入面ではほとんど利益がなかったです。次回チャンスがあれば販売の種類を考えてみたいと思います。スタッフの方の応援もあって後に繋がりそうな出会いがありました。感謝しています。

「みちことゆきこのクラフト」(クラフト作品の販売)

3年前から売っていたアクセサリーを分解したものや、防災用のローソクを入れたクラフトのワークショップをしました。小学生も喜んで作っていたので、子供向けのクラフトも来年は用意しようと思います。

「味Y屋」(陶芸作品の販売)

年に一度の手作り展、今回は連休初日もあり、来られる方が少なく残念でしたが、いつもの皆さんのお顔にお逢いする事ができ、それぞれの場所で学んだりされながら、またここに帰って来られたのだと、パワーを頂きました。ありがとうございました。

「リラクゼーション&瘦身サロンolioli」 (頭・肩などのマッサージハンドケア)

今回のイル・フェスタは9月の開催という事と、あいにくの天候で来場者数が通常より少なく感じましたが異業種の方との交流もあり、よい経験になりました。多くの方にマッサージを体験して頂けて良かったです。

「手相観・絵本作家タツミカオ」 (手相占いと絵本販売)

今回で4回目の出展。毎年、多くの方々の手相を観せて頂きますが、笑顔になって帰って行かれるのが、最高の幸せです。ワンコインでお徳感満載の手相観をさせて頂き、多くのお客様と出逢い、私もパワーを沢山頂きました。

「カラーセラピー Hiro&Miyu」 (カラーセラピー)

目の前に並んだカラーボトルは癒されます。「今」気になる選んだ色からのメッセージをお伝えし、カウンセリング等をベースに「一期一会」を大切にお話させて頂きました。素敵な時間をありがとうございました。

「アトリエ デコ」(カバンの販売)

3回目の参加です。手づくりの帽子、バック、ソックス、部屋着を販売しました。

「サンキャッチャーワークショップ」 (サンキャッチャーワークショップ)

今回の出展では、サンキャッチャーについて質問して下さる方が多くあり、実際に見て知って頂く良い機会になりました。ワークショップでは作りながら色々なお話を聞くことができ充実した時間でした。

「絵美工房」(手作りアート作品の販売)

3回目の出展となり顔見知りの方も増え、とても気楽に参加することができました。お客様に私を覚えてくださっている方も居て、本当に嬉しく、有難く思いました。今後も制作を続けて頑張っていきたいと思います。

「居場所事業所 ひらば」 (木工、ハーバリウムの販売、活動展示)

昨年と同様、商品製作から販売までを参加メンバーで行いました。商品の陳列や飾りつけをみんなでアイデアを出し合いながら協力して行うことができました。この体験をこれからに生かしていくべきだと思います。



「チフェイシャル」
(フェイシャルリンパドレナージュ)

「リラクゼーション&瘦身サロンolioli」
(頭・肩などのマッサージハンドケア)

「Angel*Garden」
(ハーバリウム)

「手相観・絵本作家タツミカオ」
(手相占いと絵本販売)

「抱き人形 愛」
(抱き人形とその洋服の販売)

「カラーセラピー Hiro&Miyu」
(カラーセラピー)



「HEMERA」

「サンキャッチャーワークショップ」

「みちことゆきこのクラフト」

「絵美工房」

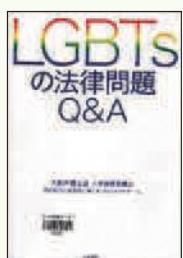
「味Y屋」

「居場所事業所 ひらば」

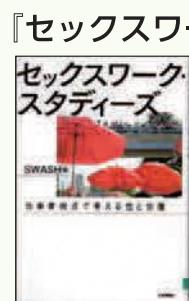
2019年度 ウィル図書コーナーから

男女共生フロア・ウィル図書コーナーでは、男女共同参画に関する図書や行政資料、報告書のほか、女性のさまざまな問題解決に役立つ図書を中心に取り揃えています。2019年度に受け入れた図書の一部をご紹介します。

書名	著者	出版社
LGBTs の法律問題Q&A	大阪弁護士会	L A B O
結婚と家族のこれから 共働き社会の限界	筒井 淳也	光文社
暴力を受けていい人はひとりもいない	阿部 真紀	高文研
セックスワーク・スタディーズ 当事者視点で考える性と労働	S W A S H	日本評論社
総務部長はトランスジェンダー 父として 女として	岡部 鈴	文藝春秋



『LGBTs の法律問題 Q&A』
大阪弁護士会の人権擁護委員会、性的指向と性自認に関するプロジェクトチームによる編集・発刊。LGBTの当事者が直面する法律上の諸問題を弁護士がQ&A形式で解説した初めての書籍。



『セックスワーク・スタディーズ
当事者視点で考える性と労働』
セックスワーカーの経験にねざし、スティグマ（負の烙印）・差別・犯罪化による人権侵害とこれらに対する戦いを明るみに出し、日本における当事者中心のセックスワーク研究を切り開く待望の書です。

『結婚と家族のこれから 共働き社会の限界』

男性中心の家制度、近代化と家の衰退、家族の形、など「家」の成立過程と歩みを振り返りながら、経済、雇用、家事・育児、人口の高齢化、世界所得格差といった現代の諸問題を社会学の視点で分析し、<結婚と家族のみらいのかたち>について考察します。



『総務部長はトランスジェンダー

父として 女として』

「これからは女として生きていきます」その日突然カミングアウトした総務部長。家族は？会社は？友人は？彼女が選んだ究極の二重生活とは？自分らしく生きたい人に勇気を与える告白的ノンフィクションです。



『暴力を受けていい人はひとりもいない』



CAP(子どもへの暴力防止)の中で学んだ子どもたちの力についてや、暴力を受けずに生きる権利など、デートDV予防活動で伝えたいことなど、わかりやすく読者に語りかけます。



どうぞお気軽に図書コーナーへお立ち寄りください。



ウィルの図書・DVDは枚方市在住・在勤・在学の方ならどなたでも無料で借りることができます。

ウィル図書カードがあれば一度に3冊まで(DVDは2点まで)2週間貸し出しています。

ウィル図書カードを作るには

◆住所が確認できる免許証、保険証等のご提示をお願いします。

◆「男女共生フロア・ウィル図書カード登録票」にご記入していただけで図書カードを即日発行、その日から図書やDVDを借りていただけます。



枚方市人権政策室男女共同参画担当 2019年度実施講座

実施日	講座
6月29日(土)	枚方市男女共同参画週間事業 男の家事が社会を救う！ ～楽しく学べるジェンダー論～
①8月29日(木) ②8月30日(金)	ウィルdeシネマ ①「愛と法」 ②「空と、木の実と。」
9月21日(土)	ウィル・フェスタ2019 シンガーソングライター 悠以 講演会＆コンサート 映画「ズートピア」上映会（2回上映） ウィルdeインストラクター (市民公募による講座等) 6グループ ウィルdeオーナー (市民公募による展示・カフェ) 8グループ ワークライフバランスパネル展、LGBTパネル展 ウィル・フェスタ ウンテブルショップ
①11月11日(月) ②11月18日(月) ③11月25日(月)	離婚を考える女性のための連続講座 ①離婚しても困らないための住宅探しの基礎知識 ②離婚を決断する前に知っておきたい法律の基礎知識 ③離婚が頭をよぎったら知っておきたいお金の話 ～家計・保険・仕事～
①1月29日(水) ②2月12日(水)	女性のための基礎から学ぶ起業セミナー ①「起業の心構えと実例」 ②「起業に必要なお金の話」
3月 5日(木)	言いたいことが言えない人のための自己主張トレーニング講座 (新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止)
3月 2日(月)～ 3月19日(木)	モアメイム原画展

定例講座

5月 8日(水)	ひとり親制度説明会と シングルマザーズ・カフェ（交流会）
6月 1日(土)	シングルマザーズ・カフェ（交流会） マッサージ体験付
11月13日(水)	ひとり親制度説明会と シングルマザーズ・カフェ（交流会）
12月 7日(土)	シングルマザーズ・カフェ（交流会） マッサージ体験付

シングルマザーズ・カフェ（交流会） 7月・8月・9月・10月・2月

寄り道講座・映画会

5月28日(火)	ウィル寄り道映画会「マーガレット・サッチャー」
6月25日(火)	お仕事帰りのリラックスヨガ
7月23日(火)	ハーバリウムを作ろう！
8月27日(火)	ウィル寄り道映画会「空と、木の実と。」
9月24日(火)	ウィル寄り道映画会「大統領の料理人」
10月29日(火)	レインボー鶴を作ろう
11月26日(火)	ウィル寄り道映画会「92歳のパリジェンヌ」
1月28日(火)	自分でできるフォトフレームを作ろう
2月25日(火)	自分でできるセルフマッサージでリラックス！ (新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止)
3月10日(火)	ウィル寄り道映画会「大統領の料理人」 (新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止)

2020年度女性のための相談案内（祝日休み）

面接相談

女性が抱える様々な悩みを受け止め、自分自身の力で次へ進めるように女性相談員がサポートします。

- 要予約 1回50分

水曜日 午後1時～4時10分

相談日 木曜日 午後2時50分～7時30分

金曜日 午前10時～午後3時

電話相談 専用電話 072-843-7860

女性が抱える様々な悩みについて電話で相談できます。女性相談員が対応します。

- 予約不要 受付は終了時間の20分前まで

火曜日 午後3時～8時

相談日 水曜日 午後1時～5時

木曜日 午前10時～午後3時

法律相談

離婚問題、家族間のトラブル、相続など女性が抱える法律上の問題について女性弁護士が相談に応じます。

- 要予約 30分1回限り

第1土曜日・第4火曜日

午前10時20分～午後0時50分

相談日 第2金曜日 午後1時20分～3時50分

第3木曜日 午後5時20分～7時50分

その他の相談案内（祝日休み）

LGBT電話相談 072-843-5730

性的マイノリティの当事者や家族などが抱える様々な悩みについて電話で相談できます。

専門の相談員が対応します。

- 予約不要 受付は終了時間の20分前まで

相談日 第2木曜日 午後3時～午後8時

※2021年2月のみ第1木曜日

男性のための電話相談 072-843-5730

男性が抱える様々な悩みについて電話で相談できます。男性相談員が対応します。

- 予約不要 受付は終了時間の20分前まで

相談日 第1土曜日 午後2時～午後5時

第4木曜日 午後6時～午後8時

《予約・お問い合わせ》

枚方市男女共生フロア・ウィル

(ひらかたサンプラザ3号館4階)

TEL 072-843-5636 FAX 072-843-5637

- 平日・第1土曜日／午前9時～午後5時30分
※ただし、火・木曜日は午後8時まで

- 休所日／第1土曜を除く土・日・祝日・年末年始

表紙・本文イラスト／タツトミカオ(絵本作家)

《編集後記》

今年度は、メセナひらかた会館の工事があり、ウィルでも講座数を減らしたり、いつもと違う時期や会場で実施したりということもありましたが、その中でも男性の家事育児参画、女性の就業、性的マイノリティへの理解促進等、男女共同参画に関わる多様な講座やイベントを実施しました。モアメイムでは、その内容も掲載し、男女共同参画をより多くの方により身近に感じていただける誌面作りをしました。今後とも男女共生フロア・ウィルとモアメイムをよろしくお願いいたします。



2020年3月

編集・発行／枚方市市長公室人権政策室（男女共同参画担当） 枚方市男女共生フロア・ウィル

〒573-0032 枚方市岡東町12番3号410号室 (ひらかたサンプラザ3号館4階)

TEL 072-843-5636 (枚方市男女共生フロア・ウィル直通)・050-7102-3239 (人権政策室 男女共同参画担当直通) FAX 072-843-5637